

平成 29 年 10 月 1 日

## 平成 30 年度 アルミニウム研究助成事業 公募要領

一般社団法人 日本アルミニウム協会

### 1. 研究助成の応募方法

所定の申請書に必要事項を記入のうえ、事務局宛に郵送又は電子メールにより提出して下さい。

### 2. 対象とする研究助成課題

アルミニウム産業の需要拡大に役立つものを対象とし、別紙に記載する研究に関連するテーマを優先とします。

### 3. 応募資格

国内の大学、短大、高専、工業高校、公設研究機関に在籍する、応募時点で 40 才未満の研究者とします。

なお、博士課程後期への進学確定者、博士課程後期在籍者も対象としますが、その際は申請書に指導教員の捺印を必須とします。

### 4. 助成期間

1 技術研究課題当たり 2 年間です。

なお、1 年間の助成も認めますが、期間は会計年度とします。

### 5. 助成金額

1 技術研究課題当たり、第 1 年度は 50 万円、第 2 年度は 30 万円とします。

### 6. 年間助成件数

新規助成技術研究課題件数は、12 件以内とします。

### 7. 研究課題の応募

(1) 応募件数は、1 件/人とします。

(2) 過去の研究助成の申請・採択の実績に関係なく、同一研究者、同一課題でも申請が可能です。

但し、採択期間中の応募を認めておりませんので、現在採択となっている研究者は、助成終了の翌年度より申請が可能となります。

(3) 応募期間は**平成 29 年 11 月 1 日から 1 月 31 日までの 3 カ月間**とします。

## 8. 研究助成課題の選考・採択

選考委員会にて選考し、平成30年3月末開催予定の理事会の決議にて採択が決定します。

## 9. 研究助成課題決定の通知

理事会終了後直ちに、事務局より電子メール又は書面、及びホームページでの公開をもって、その結果を応募者に通知します。

なお、採択の結果につきましては、理事会の後に開催されます記者会見の場で発表（プレスリリース）いたします。

## 10. 軽金属学会への入会

研究助成対象者は、採択された時点で軽金属学会の会員でない場合、入会の手続きが必要です。

### 11. 中間報告

第1年度の2月10日（土、日曜日又は国の祭日に当たる場合は、その翌日）までに助成金の使途概況と当該研究の経過概要（中間報告書）、並びに第2年度の研究助成継続希望の有無を、所定の用紙に記載して事務局宛に郵送、又は電子メールで提出して下さい。

### 12. 成果報告会

毎年2～3月頃に成果報告会を開催しております。

助成期間終了年度の報告会にて、研究成果の報告をして下さい。

なお、成果報告会において助成継続希望があった技術研究課題については、選考委員会で審査のうえ、継続可否を決定します。

### 13. 成果の発表

研究成果は助成期間終了後1年以内に、軽金属学会の研究発表講演会における発表を義務とさせていただきます。

また、研究成果は是非、軽金属学会誌「軽金属」または共同刊行誌「Materials Transactions」へ論文の投稿をお願い致します。

なお、成果発表においては「アルミニウム研究助成」によることを明記願います。

### 14. 研究助成金の使途報告

研究助成金の使途は、制限致しません。

使途報告は、会議費、設備費、消耗品費、交通費などの区分とします。

#### 1 5. 研究助成の中止

助成対象者が応募資格を喪失したときは、事情を聴取のうえで研究助成を中止する場合があります。

#### 1 6. 特許等の取扱

研究助成により得られた成果について特許等を取得する場合は、予め事務局宛に書面をもって連絡をして下さい。

日本アルミニウム協会は、当該研究者が了解する適切な条件で、特許等の使用をお願いする場合があります。

#### 1 7. 研究助成金の支払い

採択通知後 3 か月以内を目途に、申請研究者の所属機関に使用目的を明確にして、寄附金として支払います。

#### 1 8. 提出先

日本アルミニウム協会 事務局 見原

〒104-0061 東京都中央区銀座 4-2-15 塚本素山ビル（7 階）

電話 03-3538-0221 FAX 03-3538-0233

E-Mail [f-mihara@alkyo.jp](mailto:f-mihara@alkyo.jp)

申請書は電子メール、郵送何れでも受け付けますが、郵送の場合でも申請書の電子データ（Word ファイル）を事務局宛に送付下さい。

以 上

(別紙) アルミニウム研究助成事業募集に優先する研究分野

大分類	中分類	小分類
材料技術 組織制御技術	製錬技術	新製錬法
		合金技術
	枯渇元素の使用低減	
	合金添加元素量の低減	
	製造プロセス技術	結晶粒・集合組織制御
		組織（鋳造・塑性加工）の予測
		新鋳造法
		新塑性加工
		新プロセス（急速凝固）：鋳造厚 1 mm以下
		新プロセス（半溶融：DSSF）
	ナノテクノロジー	測定・評価法の適用
		各種特性発現への応用
	リサイクル リユース	回収技術
展伸材のリサイクル		
再生技術		再生アルミの付加価値向上
		複合材の再生
利用拡大技術	製品技術	ハイブリッド接合
		新接合法
		アルミ合金の機能めっき
		構造設計技術
		素形材の新高速成形法
		軽量構造材（ポーラスアルミ）
		エネルギー源
	性能向上	導電率の向上：銅合金並み
		耐食性の向上：チタン並み
		耐熱性の向上：300°Cで使用可能
		光学特性の向上：ガラス鏡並み
		放射線遮蔽性の向上：ステンレス並み